

違反事業者排除の徹底

阪神港海コン協会 理事会を開催

【阪神】 阪神港海上コンテナ協会（小西保美会長）は16日、理事会を開催。立候補による理事承認については、寺本英治氏（阪神協同作業社長）、石田博氏（大阪運輸業務部長）、小田井角栄氏（太伸興業取締役部長）の3人が承認された。小西会長は「業界発展に向け、非常に熱い思いを持たれている。次回理事会から出席していただく」と話した。また、協会内の組織

の明確化・責任範囲については、組織委、適正化委、事業委それぞれの役割が協議され、ほとんどの理事が三つの委員会での適切な意見で、各委の具体的な内容については今後話し合っていくとした。大阪港・神戸港での夜間パトロールについては、事務局から「特に大阪港では夜間の違法駐車が多い。日中でも6〜7台の海コンシャシーが切り離された状態で駐車されている」とし、さらに、「夜間には一人での見回りは危険。複数人必要と思われ」と説明した。違反事業者の対策強化については、理事から「最近、車両に社名のないものが多く、社名表示の徹底が必要。さらに、白ナンバー車両の排除、道路を車庫代わりに使っている事業者などの排除を徹底していくべき」との意見があった。



これに基づき、海コン部会で取り組めない問題を同協会でも取り組んでいき、違法業者の排除などを図っていくこととした。

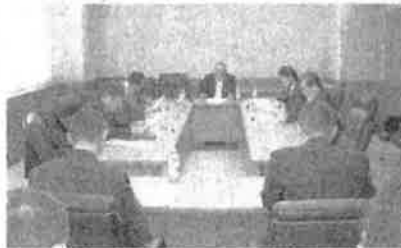
（佐藤弘行）

物流Weekly

滞留解消に向けて前進

大ト協 役員会を開催

【大阪】 大ト協海コン部会（山口与嗣雄部会長）は15日、役員会を開催した。ターミナル滞留問題の解消について、2月28日に大阪市港湾局を訪れ、ストックヤード制度について面談を行ったことを報告した。港湾局からは「ストックヤード制度の有効性は以前から聞いており、検討すべき方策の一つ。近く神戸市みなと総局に同制度の概要を聞きに行く予定」とし、港湾局側も滞留解消に向けて前向きな考えであることを確認した面談となったようだ。



また、規約第12条（停止）第2項に抵触するとしてアークフジオカの退会を承認。さらに、平成28年度部会費未納で代表者と連絡が取れない1社は、総会までに代表者と連絡が取れない場合は退会手続きを実施するとした。阪神港海コン協会への要望提出については、大ト協海コン部会員A社による貨物自動車運送事業法違反で、A社の事案については警察や運輸行政が注視しており、近年の不況の影響からか、今回のA社のような名義貸し行為や港頭地区違法駐車、運賃ダンピングなど、コンプライアンス違反が多く見られ、これら悪質業者を一掃しなければ、今後の業界発展は望めないとして、より積極的な取り組みと、悪質業者の情報を広く収集することを目的に、同協会傘下会員からの情報提供を受けられるようなシステムと、提供された情報に基づき、対処するための機関の創設をお願いしたいと要望した。

（佐藤弘行）